

調布市立若葉小学校・第四中学校基本構想中間説明会 概要

1 日時

令和3年11月6日(土) ①14時から15時20分まで/②19時から20時25分まで

2 場所

調布市立第四中学校

3 出席者

(1) 事務局

ア 教育委員会

小林部長, 高松次長, 関口施設担当課長, 森木係長, 菊地主任, 榎本主任, 野口主事,
平野(記)

イ 株式会社大誠建築設計事務所

小林氏, 樋口氏

4 進行

(1) 調布市立若葉小学校・第四中学校・図書館若葉分館の一体的な施設整備について

(2) 調布市立若葉小学校・第四中学校・図書館若葉分館の一体的な施設整備の基本構想(案)について

(3) 校舎配置計画比較検討(案)について

5 質疑応答

(1) 第1回

ア 施設が一体化することによって、図書館の機能等に変化はあるか。

→場所は変わるが、機能としての変更はない。

イ 給食室は改修されたばかりだが、新しい校舎になるとどうなるのか。

→改めて、新校舎に設置する。

ウ 工事期間に伴い、他校と授業数の違いが出てくると思うがどうか。また、9年間構想が軸となると、滝坂小、調和小の子どもが入りにくくなるのではと思うがいかがか。なお、それに伴い、学区編成を変える予定はあるのか。

→授業数については、指導室で検討していく予定。また、滝坂小、調和小は3年間となるが、9年教育に取り残されないよう、教員で準備していく。

エ 現在、通っている子ども達の環境への配慮はどうなっているのか。

→いきなり校庭が広くなる等は考えられないが、運動器具を増やす等、学校側と協議をしながら、可能な限り環境を整えていこうと思うので、引き続き、御理解・御協力を求めています。

オ 検討する際に、図書館側の人間は入っているのか。また、生活時程が違う中、どのように対応していくのか。加えて、図書館の土日開放や、サブグラウンドへの移動方法についてどのように考えているのか。

→検討委員会の中には図書館長が入っており、より具体的な内容を議論する際には、現場の声を取り入れたい。サブグラウンドへの移動方法については、歩道橋や地下通路等検討中であるが、必要性和事業費との兼ね合いで決めていく。生活時程については、先進事例を参考に進めていく。

カ 子どもの数は、追々減っていくのだから、税金を投入して建て替えるのではなく、小手先で出来ないのか。

→人数の推移については、現時点で生まれている数の話であり、この地域への転入数が増加傾向にあることから、必要性はあると考える。また、不足教室対策としてだけでなく、建物の老朽化も課題としてあるので、建て替えの必要性はあると考える。

キ 今回の計画は防災計画とも連携はあるのか。

→検討委員会のメンバーには防災担当はいないが、もう少し段階が進んだ時には、協議をする予定である。

ク 工事完了前までに子どもの数が増え、不足教室が発生すると思われるがどうか。

→場合によっては、仮設校舎の増築もあり得ると考えている。

(2) 第2回

ア PFIを予定しているようだが、どこまでの業務を想定しているのか。運営管理等も含むか。

→現時点では、設計・施工を一括でと考えている。プール等の在り方が定まっていないので、運営管理等については今後の検討となる。

イ 若葉分館について、統合という考えはあるのか。若葉小の敷地部分については、サブグラウンドではなく、地域に開かれた施設として活かせないか。また、自然エネルギーで回していけるような施設を造れないか。

→あくまで若葉分館は移転であり、それに伴い統合等で無くなることは無い。グラウンドについては、一つのグラウンドを二つの学校で使用は、現実的に難しいので必要である。また、建物そのものの老朽化やバリアフリーの観点から解体という検討を行っているが、既存のものを残すという点では改めての検討課題だと思われる。併せて、自然エネルギーについては、具体的な取り組みはまだ決まっていないが、検討課題だと考えている。

ウ 子どもの数が減った時の施設の利用方法や、プールについては調和小の様に開放されるのか。また、検討委員会の学識経験者が1人というのは少ないのではないか。

→空き教室が発生した際には、学童への転用や地域開放を前提での転用としたい。また、プールについては、配置等も含め今後の検討となる。なお、学識経験者の人間については、検討委員会そのものの規模を鑑みて1人としている。

詳細の内容については、市ホームページをご覧ください。

トップページ>子育て・教育>教育委員会>調布市立若葉小学校・第四中学校の改築
<https://www.city.chofu.tokyo.jp/www/contents/1639017231553/index.html>